

I 研究主題 豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成
～総合学習の可能性を今、社会へ発信しよう～

II 主題設定の理由

2008年3月に学習指導要領が改訂された。改訂学習指導要領では、「基礎的・基本的な知識・技能の習得」と「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な、思考力、判断力、表現力等」を車の両輪にたとえ、それぞれを伸ばしていくことが「学力向上」につながるとしている。しかし、一方では教科等の枠を超えた探求活動の充実により思考力、判断力、表現力等を育成するとしているが、探究活動に結びつくはずの「総合的な学習の時間」は時間減となり、矛盾がある。

学力テストの実施や、新学習指導要領に準拠した教育課程の編成等、学校現場には課題は山積している。多忙化を極める教育現場において、毎日の教材研究ですらままならず、自主創造的な教育実践をすすめることが困難な現状がある。しかし、このような中であっても、私たちは、子どもたちに「本当につけさせたい学力」とは何かを改めて問い直し、自主創造的な教育実践を積み重ねることで、子どもたちに「豊かな学び」を保障していく必要がある。

学びやすい、そして発展性のある、質の高いカリキュラムや実践を創造していくことは、私たち教職員の使命である。子どもの実態をふまえ、教材の活用や授業の展開を徹底的に検討することに加え、もし子どもがつまづき、理解が十分でないところがあるとなれば、カリキュラムや授業プランを工夫して、その内容や方法をを創りかえる必要がある。すべての子どもたちが、学び合いの中で、「学びの意欲」を喚起できる「わかる授業」「楽しい授業」を創造するために、日々目の前にいる子どもたちの実状に合わせたカリキュラムを追究することが求められている。

自ら学ぶ視点や展望が自覚できる評価へ、多様な子どもたちが学び合える「場」づくり、自主的な活動を通じた人権学習など、子どもたちの「ゆたかな学び」を保障するカリキュラムづくりに取り組んでいくことが必要である。

また、子どもたちの心を豊かに育てるために、仲間の実践に学びながら、常に子どもたちの実態、地域の実態等を考慮し工夫を施し教育課程を編成していきたいと考える。

さらに、子どもたちの学びが豊かなものとなるようにするために、子どもたちの学びの様子に柔軟に対応できるよう教育課程にゆとりを持たせたい。

そこで、本部会のテーマを「豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成」として、研究実践に取り組んでいくこととした。

III 研究の内容

- ・総合的な学習の時間や教科に関わってのカリキュラムづくり
- ・個人的な実践の報告
- ・新教育課程に向けての情報交換
- ・外国語活動についての情報交換等

IV 研究の経過

5月 7日（金）研究組織・研究の方向性（研究テーマ、研究計画、具体的方法）

- 5月19日(水) 研究計画確認 学習会
- 6月2日(水) 個人研究・実践の発表 (井尻小 岡先生)
- 6月23日(水) 個人研究・実践の発表 (日川小 竹川先生)
- 8月2日(月) 夏季学習会 授業案検討
- 9月1日(水) 統一授業研 (奥野田小 山縣先生)
- 9月29日(水) 秋季教研 レポーターの選出・個人研究・実践の発表 (岩手小 小野先生)
- 11月24日(水) 県教研の報告 個人研究・実践の発表 (牧丘一小 新海先生)
- 2月9日(水) 個人研究・実践の発表 (勝沼小 古屋先生)
- 2月16日(水) 研究のまとめ・個人研究・実践の発表

V 研究の成果と課題

- ・授業実践では、5年生の社会科での「米づくり」の学習と、「食教育」、「総合的な学習の時間」を関連づけてカリキュラムを工夫しての授業実践を提供してもらった。「総合的な学習の時間」では、子ども達が自らが興味をもったものから課題を設定し、意欲的に取り組む姿がみられた。
- ・子どもたちが、自らの課題に積極的に取り組んでいけるように学ぶ場を工夫したり、実際に試してみたり、またそれが可能となるよう、多くの先生方にかかわっていただいたりした。子どもたちは、総合的な学習を楽しむとともに、総合的な学習の一連の活動を楽しむようになった。
- ・各校の「総合的な学習の時間」で育てる力が、「学んだことを生活の中に生かそうとする」、「友だちのよさや自分のよさ、自分の生き方を考える」等を学べてよかった。
- ・「総合的な学習の時間」の実践発表も、参考になる点が多かったが、新学習指導要領に関わる情報交換もたいへん参考になった。
- ・実践報告の選流によって、総合的な学習の時間における様々なアプローチの仕方や指導上の工夫などを知ることができ、自分自身の実践に役立てることができた。
- ・今日的な教育課題についての資料が提示されたことによって、日常の教育活動への意識や関心が高まった。
- ・個人実践の発表から、各学校の状況に応じた取り組みを学ぶことができた。
- ・幅広い観点で、意見交換をすることができた。
- ・教育課程の創造という観点で、総合学習の取り組みと関連付いた点を、私個人としては見出すことができなかった。
- ・レポーターも教材研究を十分にして、授業を行っていた。部会内でも提案に対して十分に討議できた。
- ・理論研究にもとづいた授業実践に関わって、社会へ発信することは何かと効果的な発信の具体化について研究を深めたい。
- ・「総合的な学習の時間」が削減される中で、どのような総合学習を進めていくことが望ましいのか、部会としての考えを討議することも必要であったと思う。
- ・「総合的な学習の時間」やカリキュラムの他、教育課題に関わる情報交換など学ぶべきことが多かった。多くの先生方に参加してほしい。

(部長 鈴木 英仁)